

3 環境情報の収集・発信

センターは、県民に環境意識の向上や環境保全活動を支援するため、環境学習情報のほか、試験研究情報、国際貢献情報など様々な情報をホームページ(HP)で提供している。センターでは、ホームページを情報発信の重要なツールの一つとして捉え、より効果的に情報発信を行うための整備を行っている。

また、新聞による環境情報の発信や、センターの活動を広く知ってもらうためにニュースレターを発行した。

HPアドレス <http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/fl6/> [平成25年度アクセス件数 134,135件 前年度比 5.0%増]

3.1 ホームページのコンテンツ

(1)新着情報

トップページ上段に、最新の更新情報を掲載。

(2)お知らせ

注目トピックス、展示館と各種講座・イベントのお知らせ、研究所からのお知らせ、マスコミ報道を掲載。

(3)センターについて

総長あいさつ、組織図、沿革、全景(航空写真)を掲載。

(4)利用案内

研究所公開、所在地・連絡先、展示館や研修室の利用方法、社会科見学案内、交通手段等について掲載。

(5)センターの施設

展示館、環境情報プラザ、生態園を施設ごとに紹介。

(6)環境学習・情報

出前講座、生態園だよりのほか、彩の国環境大学、県民実験教室などの講座やイベント情報について掲載。

(7)試験・研究

試験研究の取組、国際貢献、センター講演会の概要、刊行物をPDFにより提供する「刊行物データベース」等を掲載。

(8)関連リンク(バナー表示)

研究成果の情報(リポジトリ)や今月の里川、ココが知りたい埼玉の環境、センターパンフレット(日・中・英語版)など。

(9)クイックリンク

二酸化炭素濃度速報値、光化学スモッグ注意報等発令状況(外部リンク)、埼玉県生物多様性データベース、埼玉県自然学習センター(外部リンク)ほか。

3.2 ニュースレターの発行

センターが行っている試験研究の内容や様々な講座、イベントなどの情報を県民の方々に広く情報提供するため、ニュースレター(A4版、4ページ)を、平成25年度は4回発行した。なお、ニュースレターは、センターのホームページからも閲覧及びダウンロードすることができる。(関連リンクにバナーあり)

(1)第19号(平成25年5月発行)

- ・平成24年度埼玉県環境科学国際センター講演会
- ・研究・事業紹介 「埼玉県の地質地盤情報整備と地下水質特性の総合評価に関する研究」
- ・ココが知りたい埼玉の環境(10) 「PM2.5」ってどんな物質なの？
- ・環境学習 ・イベント情報

(2)第20号(平成25年7月発行)

- ・県民環境学習会「PM2.5の真実！」を開催しました
- ・研究・事業紹介 「県民全体を主体とした光化学スモッグによるアサガオ被害調査と市民環境科学」
- ・ココが知りたい埼玉の環境(11) 「土壌汚染」って県内でも大きな環境問題になっているの？
- ・環境学習 ・イベント情報

(3)第21号(平成25年10月発行)

- ・第3回日中水環境技術交流会in浙江省を開催しました
- ・研究・事業紹介 「アユの遡上作戦」
- ・ココが知りたい埼玉の環境(12) 野鳥の異常死の原因は？
- ・環境学習 ・イベント情報

(4)第22号(平成26年1月発行)

- ・「県民の日特別企画・研究所公開」を開催しました
- ・研究・事業紹介 「環境汚染が懸念される新たな化学物質Part2」
- ・ココが知りたい埼玉の環境(13) 「環境リスク」って何ですか？
- ・環境学習 ・イベント情報

3.3 センター講演会

当センターでは、広く県民に活動内容及び研究成果を紹介することにより、県民のセンターに対する理解と環境問題への関心を深めることを目的として「平成25年度環境科学国際センター講演会」を平成26年2月4日にソニックシティ(さいたま市大宮区)で開催した。「環境汚染と私たちの暮らし～安心と不安の狭間を埋める意識と知識～」を統一テーマとして、内閣府食品安全委員会委員長代理の佐藤洋氏が基調講演を行うとともに、センター研究員による研究成果・事例の発表及び研究活動紹介のポスター展示と解説を行い、環境問題への理解を深める機会とした。センター講演会の参加者は213名であった。

(1) 基調講演

環境と食品の安全…………… 内閣府食品安全委員会 委員長代理 佐藤 洋

食品の摂食は、健康に害を及ぼす可能性のある危害要因(ハザード)を同時に摂取することにもなるので、ハザードによってもたらされる危害をどのように避けるのか、その知恵が必要である。近年「リスク分析(Risk Analysis)」と呼ばれる手法で、食の安全を確保することが国際的なコンセンサスとなっている。「リスク分析」の枠組みの中で、食品安全委員会は、食品健康影響評価を行うリスク評価機関である。メチル水銀や鉛のリスク評価を例にすると、これらは環境汚染の様態や環境動態は全く異なるものではあるが、いずれも食物が主要なばく露源であった。この二つの例は、食品のリスク評価において、対象となる汚染物質の環境動態をはじめとして環境科学の知見も重要であることを示している。食品ないしは飲水が主要なばく露源となる環境汚染物質は、その他にもカドミウムやヒ素、ダイオキシン・PCBsはじめ残留性有機汚染物質などがある。これらは、いずれも、食品摂取を通したばく露やその影響についてリスク評価をしていく必要がある。

(2) センターの研究成果・事例紹介

土壌汚染と農産物

— 植物を用いた農地の修復技術の実用化に向けて — …………… 自然環境担当 王 効挙

汚染土壌の効率的な修復と有効利用を同時に実現する低コスト・低環境負荷型のファイトレメディエーションが近年注目されている。しかし、このファイトレメディエーションは、重金属高蓄積植物等の特殊な植物(専用植物)を開発し、汚染土壌に栽培した後に、収穫した植物を焼却処理するものであり、修復期間における収益性の確保がなく実用化にいたっていない。本発表では、専用植物の代わりに、高付加価値の資源植物の活用による新たな「収益型のファイトレメディエーション技術」の研究を紹介した。

有害廃棄物と生活環境

— アスベスト廃棄物問題への技術アプローチ — …………… 資源循環・廃棄物担当 川崎幹生

高度経済成長期に建設された建築物の建て替え時期を迎えるに当たり、建築物の解体・改修に際し、これまで以上の石綿対策を実施し、作業員の健康被害及び周辺環境への飛散を抑制する必要がある。建築物の解体、廃棄物処理について、法規制や様々な対策が進められているが、最も基礎的で重要な技術は“現場で石綿含有建材であることを見分ける”技術とその技能を有する人材を育成、確保することである。本発表では、現場における石綿含有建材の迅速な判定方法として開発してきた目視判定方法について報告した。

大気汚染と生活環境

— PM2.5汚染の実態と解明のための最近の取組 — …………… 大気環境担当 米持真一

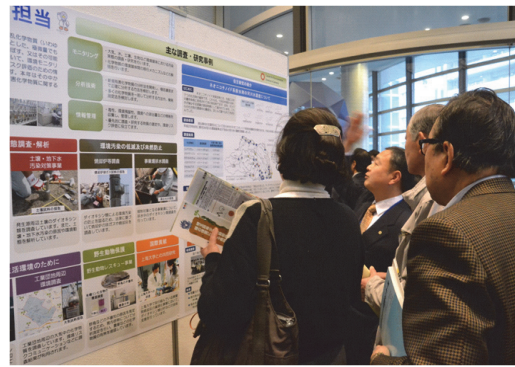
大気中に浮遊する微小な粒子のうち、粒径が $2.5\mu\text{m}$ ($1\mu\text{m}$ は千分の1ミリメートル)以下のものをPM2.5と呼び、呼吸により肺の深部まで侵入し、呼吸器や循環器などへの悪影響が指摘されている大気汚染物質である。国内のPM2.5については、少なくとも、関東地域ではPM2.5の大部分は国内の発生源による影響であり、身近なところにも発生源があることを理解する必要がある。過去12年間の測定結果からは、濃度は減少傾向にあることが分かる。本発表では、PM2.5の詳細を明らかにするため、国際共同研究とともに、国内研究機関とも協働した取組を通じた研究について報告した。

(3) センターの活動紹介

各担当がその活動概要を紹介するポスターを展示し、参加者に説明するとともに、質問に答えた。



基調講演



ポスター展示

3.4 環境情報の提供

(1) モニタリングデータの提供(CO₂)

環境科学国際センターは、さいたま市(1991～2000年度)、堂平山(1992年度～)及び当センター(2000年度～)において、地球温暖化原因物質である大気中のCO₂の濃度を観測してきた。測定に当たっては、世界気象機関標準ガスを基準としており、観測データについては、温室効果ガス世界資料センター(WDCGG)へ提供することにより、国連世界気象観測機構(WMO)の観測網を通して世界各地に供給した。平成21年10月からは、当センターの観測結果(速報値)をセンターホームページに掲載(自動更新)し、公開している。

(2) 環境情報の海外への発信

英語版ホームページに英文、中国語文のパンフレットを掲載するとともに、研究成果や研究員紹介などを掲載し、海外に向けた情報発信を行った。

3.5 マスコミ報道

センターの試験研究、環境学習等に関して、記者発表を行ったほか、取材を受ける等の結果、以下のとおりマスコミによる報道があった。

(1) 新聞報道、広報誌掲載

(42回)

掲載日	掲載紙(誌)	タイトル	内 容
4月 4日 (木)	日経ビジネス	微粒子に気をつけろ！ 日本を襲う「PM2.5」の 真実	PM2.5の発生メカニズムや今後の濃度変化の予測、中国大陸からの越境移流の影響などについて解説。環境省の専門家会合の委員でもある坂本総長にインタビュー。「(越境移流の影響は)あるとは考えられるが、その程度を見極められる状況にない」「測定データなどの情報を理解し冷静な対応を」などと説明。
4月10日 (水)	毎日新聞	マルタウグイ産卵撮影 水質浄化の不老川 川 面に水柱 壮観	川越で日報連会員菊池さんが不老川のマルタウグイの産卵を撮影。写真を見た県環境科学国際センターの金澤光自然環境担当部長は、口を開けているのがメスで、水柱の下には数匹のオスがいる。川の様子もこれがかつて日本一汚いと言われた不老川かと目を疑うほどきれいで、水質改善が着実に進んでいることがわかるとコメント。
4月10日 (水)	埼玉新聞	アユ躍る入間川復活を 県、農業用堰の改善工 事へ 魚道整備で遡上 促す	荒川に遡上してくる天然アユを入間川に呼び込もうとする県の魚道整備事業が最下流の菅間堰で始まった。県や市民団体によるアユ標識放流調査の結果、魚道がない堰や不十分な堰があることが確認された。長年、アユの遡上調査に取り組んでいる県環境科学国際センターの金澤光自然環境担当部長は、幅広い市民が関わった運動として地道に取り組んだ成果が身を結んだとコメント。
4月11日 (木)	朝日新聞	VS.気候異変 適応策 (下) 先読みでリンゴ 王国守れ	このまま温暖化が進むと、長野県からリンゴの栽培適地が大きく減ってしまうと、埼玉県環境科学国際センターの増富主任と長野県環境保全研究所との共同研究により分かった。試算によると21世紀末には20世紀末より気温が4.5℃上がり、リンゴの栽培適地が40%減ってしまう。

掲載日	掲載紙(誌)	タイトル	内 容
5月 1日 (水)	日本経済新聞	地盤情報を拡充・改訂	環境科学国際センターは県内の地盤情報を掲載する資料集を6年ぶりに改訂。ボーリングデータは約4670地点収録。また、県内19市町の23地点の地下温度も新たに掲載。地下水の水素イオン濃度指数pHなど水質も約260地点分を収録している。
5月 3日 (金)	東京新聞	限定要チェック 環境の不思議を発見!	年3回行われる研究所公開、ゴールデンウィーク特別企画イベントとして行われる第1回公開の案内。無響室や20年分のフィルターサンプル、外来生物の標本・剥製などA、B各コースの見所を紹介し、併せてサイエンスショーなど他のゴールデンウィーク特別企画の情報も掲載。
5月 8日 (水)	日経BP社 Tech-On	キーワードで読み解く最新トピック 「PM2.5」測定	環境省が取りまとめたPM2.5の注意喚起に関する指針やメーカーが開発した自動測定装置の解説などを行うとともに、専門家として総長にインタビュー。自動測定装置による1時間値の考え方や標準測定法との違い、1時間値の活用方法などについて解説。
5月10日 (金)	産経新聞	PM2.5問題で県 来月5日学習会	6月5日に開催される県民環境学習会のお知らせ。関心が高まっているPM2.5について、正しい理解と冷静な行動を呼びかける学習会の日時、連絡先等を掲載。
5月11日 (土)	埼玉新聞	都幾川に遡上アユをNPO法人が標識放流	NPO荒川流域ネットワークは、都幾川の天然遡上アユ復活を目的に、稚アユの「アブラビレ切除標識放流作業」を実施した。夏に生息調査を実施する予定。県環境科学国際センターの金澤光自然環境担当部長が軽く麻酔をかけ、参加者全員でアブラビレを切除し、放流した。
5月15日 (水)	東京新聞	県発行「地質地盤資料集」異例の売れ行き	環境科学国際センターが4月に改訂版を発行した「埼玉県地質地盤資料集」が異例の売れ行きを記録。改訂版はボーリングによる地質調査結果を拡充したほか、地下の温度分布、地下水質のデータを新たに掲載。建設・建築業者のほか一般からの問い合わせも多いと紹介。
5月18日 (土)	埼玉新聞	サワトランオ 希少植物 県庁で展示	生物多様性保全の取り組みを知ってもらおうと、県は県庁本庁舎1階・県民案内室と県環境科学国際センター展示館で、希少野生動植物種「サワトランオ」の展示を始めた。同センターと県立いずみ高校では、サワトランオの保護・増殖を行っている。同センターで育成したものが見頃を迎えたため展示し、多くの県民に見てもらおうことにした。
5月19日 (日)	読売新聞	サワトランオ展示	絶滅の危険性が高いとして、レッドデータブックで「絶滅危惧 I A類」に指定されているサワトランオの展示が、県庁本庁舎1階の県民案内室と県環境科学国際センター展示館で始まった。同センターは県立いずみ高校と連携して、保護増殖活動を進めている。
5月20日 (月)	埼玉新聞	基礎知識や現状解説 PM2.5の学習会	6月5日に開催される県民環境学習会のお知らせ。関心が高まっているPM2.5について、正しい理解と冷静な行動を呼びかける学習会の日時、連絡先等を掲載。

掲載日	掲載紙(誌)	タイトル	内 容
5月20日 (月)	東京新聞	PM2.5を知ろう 来月5日に学習会	6月5日に開催される県民環境学習会のお知らせ。関心が高まっているPM2.5について、正しい理解と冷静な行動を呼びかける学習会の日時、連絡先等を掲載。
5月21日 (火)	東京新聞	サワトラノオ見ごろ 希少野生植物、県庁などで展示	県条例で希少野生植物に指定された「サワトラノオ」の花が見ごろを迎え、県庁の県民案内室と県環境科学国際センターで展示されている。県では、2004年から同センターで保護・増殖活動を始め、現在五百株を育てている。
5月21日 (火)	産経新聞	希少植物サワトラノオ公開	ごく近い将来に絶滅の恐れのある希少植物、サワトラノオが開花し、県庁1階の県民案内室と県環境科学国際センターで展示されている。県は平成16年、自生地でも種を採種。同センターで増殖に取り組み、今では毎年花を咲かせている。
6月18日 (火)	読売新聞	中国で水ビジネス相談会	中国・浙江省嘉興市で開催される環境技術交流会についての案内。これまでの開催状況や嘉興市の現状などにも触れ、「工場・生活排水対策と河川・湖沼環境保全技術」をテーマに開催される技術交流会を紹介。
6月20日 (木)	読売新聞	絶滅危惧のユリ展示	県は、レッドデータブックで「絶滅危惧 I A類」に指定されているミヤマスカシユリの公開を始めた。本庁舎1階の県民案内室と県環境科学国際センター展示館で見ることができる。ミヤマスカシユリは、石灰石の採掘やニホンザルの食害で数が減っているという。
6月20日 (木)	産経新聞	絶滅免れ見事に開花 ミヤマスカシユリ	県レッドデータブックで絶滅危惧種に指定されているミヤマスカシユリが県環境科学国際センターで開花、同センター展示館と県庁1階県民案内室で展示が始まった。ミヤマスカシユリは、石灰石の採掘やニホンザルの食害で激減したが、同センターなどで保護・増殖に取り組んでいる。
6月22日 (土)	埼玉新聞	弓のようなミヤマスカシユリ	県内の希少野生動植物で、県の絶滅危惧 I A類に分類されている「ミヤマスカシユリ」が花を咲かせ、県庁や県環境科学国際センターに展示されている。ミヤマスカシユリを守るため、同センターや横瀬町、県立いずみ高校などで保護・増殖活動を実施しているが、今回は同センターで育てている花が咲いた。
6月27日 (木)	毎日新聞	カブトエビ復活の兆し 富士見の水田減農薬が進み	富士見市の水田脇の水たまりで生きた化石といわれるカブトエビを日報連会員菊池さんが撮影した。県環境科学国際センターの金澤光自然環境担当部長は、富士見市で撮影されたことからアメリカカブトエビと推定する。カブトエビやホウネンエビなどが減農薬の効果で再び発生する田んぼが見られるようになったと指摘している。

掲載日	掲載紙(誌)	タイトル	内 容
6月29日 (土)	埼玉新聞	CO ₂ 濃度20年で10.5%増 東秩父の観測所「大変な上昇率」	県と環境科学国際センターは、東秩父の堂平山観測所で二酸化炭素の濃度が2012年の半数の月の月平均値で400ppm以上を記録したと発表した。1993年に比べ2012年の平均値は10.5%増となり、環境科学国際センターは「大変な上昇率」としている。
6月29日 (土)	産経新聞	殺虫剤摂取？加須でドバト5羽死ぬ	加須市北小浜で5羽のドバトが死んでいるのが見つかり、埼玉県環境科学国際センターで3羽を調べたところ、殺虫剤に使われるフェンチオンが検出された。
7月12日 (金)	埼玉よみうり	男堀川生き物調査 親子で川の調査(本庄市)	地域の川に親しんでもらおうと6日「川の生きものみつけ隊～里川保全活動～」が男堀川で行われた。県環境科学国際センターの金澤光自然環境担当部長は、「生態系の頂点にいるナマズが捕れたということは、エサにしている魚がたくさんいる証拠。これからも皆さんで生きものがすめる環境を守り続けてほしい」とコメント。
7月17日 (水)	毎日新聞	鳥142羽の死骸が加須で見つかる	加須市内の路上でムクドリやスズメなど142羽が死んでいるのが見つかり、その内10羽を埼玉県環境科学国際センターで検査したが、農薬などの化学物質が検出されず、原因はわからなかった。
7月27日 (土)	埼玉新聞	県環境科学国際センターPM2.5の実態解明へ日中韓で共同観測	環境科学国際センターは大気汚染の原因となる微小粒子状物質PM2.5などについて、日中韓による共同観測を実施すると発表。8月と来年1月に観測し、来年夏頃までに観測結果を解析する。同センターは開設時から微小粒子状物質の研究に力を入れており、2000年からPM2.5の観測を続けている。
7月30日 (火)	毎日新聞	日中韓で大気汚染研究 県環境科学セン 越境するPM2.5調査	環境科学国際センターは大気汚染原の微小粒子状物質PM2.5等に関する日中韓の国際研究に取り組む。1月の北京で採取した高濃度のPM2.5に関する解析結果から、硫黄や鉛、カドミウムなど金属元素の割合が高いことが判明。
7月30日 (火)	日本経済新聞	日中韓でPM2.5測定へ 県環境科学国際センター来月中旬から	環境科学国際センターは中韓の研究機関と連携し、大気中の微小粒子状物質PM2.5等の共同測定を始める。第1弾は8月中旬から一斉に測定、第2弾は微小粒子状物質の濃度が高まりやすい来年1月を予定。
7月31日 (水)	産経新聞	PM2.5中韓と合同調査 県環境科学センター、来月から	中国で大量発生し大気汚染の原因となっている微小粒子状物質PM2.5について、環境科学国際センターは国境を越えた大気汚染の実態解明のため、中国と韓国の研究機関との合同調査を8月から始める。PM2.5に特化した日中韓の共同研究は全国初。来年の夏頃、何らかの研究成果を発表する予定。

掲載日	掲載紙(誌)	タイトル	内 容
8月 3日 (土)	読売新聞	PM2.5観測、韓国参加	日本でも関心が高まったPM2.5について、県環境科学国際センターは、中国と行ってきた共同観測に韓国も加わると発表。8月から2週間、日中韓の6地点で観測。1月の北京市で観測したPM2.5の成分を調べた結果、金属元素の割合が高く、石炭ストーブの影響が原因と推定されると説明。
8月 9日 (金)	産経新聞	気になる「日中韓で合同調査」	にわかには世間に知れ渡ったPM2.5、県環境科学国際センターでは平成12年から継続的に調査をしていた。平成21年度からは中国と今夏からは韓国も加わり、合同で観測を始めた。不安の払拭や効果的な対策に役立つ基礎研究を期待したい。
8月10日 (土)	埼玉新聞	葉に斑点103地点 アサガオで影響確認	県環境科学国際センターは、昨年7月にアサガオの葉を使って光化学スモッグの被害実態を調べたところ、調査した県内36市町村の105地点のうち103地点で被害を確認したと発表した。アサガオの葉の表面に白色や褐色の斑点が確認でき、光化学スモッグの主成分であるオゾンの影響を受けていたことが分かった。
8月14日 (水)	産経新聞	光化学スモッグは「アサガオ」で調査	県環境科学国際センターは夏場に多く発生する光化学スモッグに関心を持ってもらおうと、身近にあるアサガオで光化学スモッグを調べる方法を紹介している。アサガオは、光化学スモッグの主成分であるオゾンにより葉に被害が現れる。同センターはこの特性を生かし、平成17年からアサガオの葉の様子を観察する県民参加型の調査を実施している。
8月15日 (木)	毎日新聞	絶滅危惧種ムサシトミヨ幼魚公開 北本・県自然学習センター「珍しい」水槽繁殖	熊谷市の元荒川だけに生息する絶滅危惧種・ムサシトミヨが自然学習センターで展示中の水槽の中で繁殖に成功した。飼育指導した県環境科学国際センターによると、ムサシトミヨは非常に臆病な魚で、生息地の元荒川のほか、保護センターや熊谷市内の小中学校の池などで繁殖しているが、展示中の水槽で繁殖した例はないという。
8月16日 (金)	埼玉新聞	生き物たくさんいたよ 本庄の小山川 児童らが川の探検隊	元小山川水環境改善活動連絡会の主催で、8回目。子どもたちは胴付長靴とライフジャケットを着て川に入り、生きもの調査をした。県環境科学国際センターの魚の専門家、金澤光自然環境担当部長は投網を行って、今が産卵期のオイカワを捕獲した。「オイカワは今、こんなに美しい色をしているんだよ」と子どもたちに見せた。
8月17日 (土)	東京新聞	韓国加え観測 汚染の実態解明へ	中国からの越境汚染の可能性が指摘される大気中の粒子状物質PM2.5をめぐる、県環境科学国際センターと中国で行って来た共同研究に韓国も加わった。日本に到達する前の状況把握が期待できる。国に先駆けて共同観測態勢が構築された形で、当面夏と冬の年2回行う予定。解析結果は1年ほどでまとまる見通し。

掲載日	掲載紙(誌)	タイトル	内 容
8月18日 (日)	毎日新聞	葉の被害44.3% アサガオ大気汚染調査	県環境科学国際センターが毎夏、光化学スモッグの影響を受けやすいアサガオの葉を通じて、県民参加型の大気環境調査を続けている。昨年7月は、県内105地点のうち103地点で被害を確認。全ての葉の中で被害が生じた割合は前年比7.4ポイント増の44.3%に及んだ。
11月1日 (金)	読売新聞	飛来PM2.5発生源特定へ 中国レアアースで解析	中国方面から北西風が吹き、日本や韓国でPM2.5が高濃度で観測されるとき、その成分中に中国で産出されるレアアースの一種ネオジムの濃度が高まることを日中韓の研究者が突き止めた。日本の大気汚染物質のうち、どの程度が中国からの飛来分かはっきりしておらず、ネオジムを目安とした発生源解析が注目されている。
11月1日 (金)	産経新聞	入間川に天然アユを 県再生事業 堰6カ所に魚道設置、飯能への遡上目指す	県環境科学国際センターの金澤光自然環境担当部長は、「菅間堰ほど落差があると、上流と下流で完全に分断され、生態系も異なってしまう。魚道整備でアユ以外の魚類ものぼることができ、生物多様性が保全される」と意義を評価。その上で「アユが戻ると環境の良さや、季節の変化が感じられ、川に人が集まってくる」と期待している。
1月1日 (水)	信濃毎日新聞	県内100年で2.0～4.7度暑く	長野県の平均気温が20世紀末を起点とし、21世紀末にどの程度変化するか、県環境科学国際センターの協力を得て調べた。その結果、温室効果ガス排出量を最大限に減らす場合は2.0℃に抑えられ、対策をほとんど行わない場合は4.7℃上昇すると予測された。
1月20日 (月)	埼玉新聞	PM2.5テーマ大気環境語る 宮代の日工大で特別講演会	日本工業大学の環境特別講演会が開催され、県環境科学国際センターの米持専門研究員が、PM2.5をテーマに講演。県内の現状や最新の研究報告などを行った。
1月25日 (土)	読売新聞	講演会「環境汚染と私たちの暮らし」	「環境汚染と私たちの暮らし」をテーマに行われるセンター講演会の開催情報。講演内容、日時、会場、連絡先等を掲載。

(2) テレビ放映、ラジオ放送

(17回)

放送日	局名	番組名(タイトル)	内 容
5月10日(金)	TBSテレビ	Nスタ	5月6日に行われた第1回研究所公開の様子を紹介。音の反響がない無響室の体験や大気環境の改善がひと目でわかる20年分のフィルターサンプル、外来生物の剥製など見ながらの生物多様性についての解説など、各コースの見所を紹介した。また、サイエンスショーの様子も紹介。
6月5日(水)	テレビ埼玉	NEWS930	さいたま市民会館うらわホールで開催されたPM2.5県民学習会の様子を紹介。

放送日	局名	番組名(タイトル)	内 容
6月29日(土) 再放送 7月 4日(木)	NHK Eテレ	モリゾー・キッコロ 森 へいこうよ!?「川にす むタツノオトシゴ! 幻の ”ムサシトミヨ”を探せ!」	県環境科学国際センターの金澤光自然環境担当部長が出演。他の出演者とともに元荒川源流でムサシトミヨを探し、生態や現在の生息環境について説明。 (昨年度の再放送)
7月14日(日)	テレビ朝日	スーパーJチャンネル	加須市で死因が特定できない140羽の鳥の死骸が見つかった。死骸に目立った外傷はなく、農薬や鳥インフルエンザなども検出されなかった。
7月14日(日)	TBSテレビ	Nスタ	加須市の路上で、ムクドリやスズメなどおよそ140羽の鳥の死骸が見つかった。死骸に目立った傷はなく、鳥インフルエンザのウイルスや農薬の物質は検出されていない。
7月16日(火)	FM NACK5	「モーニングスクウェア」	8月24日から開講される「彩の国環境大学」受講生募集のお知らせ。
8月24日(土)	FM NACK5	PUNCH de ドーヨー?	富士山八合目(江戸屋)の臨時開設局で生放送。 日中韓の共同観測の一地点として富士山頂でもPM2.5等の観測を行っている。富士山頂で行うことの意義、他の地点との関係、越境大気汚染などについて説明した。
10月30日(水)	日本テレビ	news every.	中国からの越境大気汚染に関連して、センターにおけるPM2.5の試料採取の様子や、センターにおいて観測された過去3カ年の冬季の硫酸イオン濃度を紹介し、越境大気汚染の状況や秋から冬にかけて濃度が上昇しやすい気象条件などを説明した。
11月 5日(火)	NHK総合テレビ	おはよう日本 首都圏 関東甲信越 続々登場! メダカ新品種	県環境科学国際センターの金澤光自然環境担当部長は、本来そこにはいない魚が持ち込まれると、元々生息するメダカが絶滅に追い込まれたり、この地域固有の遺伝的特徴が失われたりするおそれがあると考えている。養殖メダカの愛好は面白いと思うが、水槽の中で努力してもらい、外には放流しないでほしいとコメントした。
1月 8日(水)	NHK総合テレビ、BS	ニュース (午後5時全国放送)	本日より、日中韓でPM2.5の同時観測が開始となった。本観測は全地点で同じ装置を用い、同時にPM2.5を採取するもので、越境大気汚染現象を詳しく知ることができる。当センターに設置されている観測装置の紹介や、レアアースに着目した取組を説明した。
1月 8日(水)	NHK総合テレビ	首都圏ネットワーク	本日より、日中韓でPM2.5の同時観測が開始となった。本観測は全地点で同じ装置を用い、同時にPM2.5を採取するもので、越境大気汚染現象を詳しく知ることができる。当センターに設置されている観測装置の紹介や、レアアースに着目した解析を説明した。

放送日	局名	番組名(タイトル)	内 容
1月 8日(水)	NHKワールド	(海外向け英語放送)	本日より、日中韓でPM2.5の同時観測が開始となった。本観測は全地点で同じ装置を用い、同時にPM2.5を採取するもので、越境大気汚染現象を詳しく知ることができる。当センターに設置されている観測装置の紹介や、これまでの取組の説明。
1月 9日(木)	TBSテレビ	Nスタ	昨日より、日中韓でPM2.5の同時観測が開始となった。昨年行った日中でのPM2.5観測では、北京の試料中に、高い比率でヒ素(As)が含まれていたことが分かった。レアアースのうち、ネオジムに着目した解析についても説明した。
1月22日(水)	TBSテレビ (CS)	TBSニュースバード (生出演)	約30分の生出演。PM2.5とは？中国のPM2.5についてのコメント、日中韓の共同研究についての説明、昨年度の日中観測結果について、重金属やレアアース(ネオジム)に着目したデータを説明。そのほか、PM1、マスクや空気清浄機について、簡単なコメントなど。
1月23日(木)	NHK総合テレビ	ニュースウォッチ9	日中韓のPM2.5共同観測についての紹介。また、昨年度に実施した日中での共同観測結果のうち、レアアース(ネオジム)に着目したデータを説明した。
3月 3日(月)	TBSテレビ	朝ズバッ!	日中韓のPM2.5共同観測について、昨年度に実施した観測の結果のうち、レアアース、重金属等に関するデータを説明した。
3月 5日(水)	NHK仙台放送局	てれまさむね	視聴者が蔵王連峰から山形市内を撮影した写真について、大気汚染との関係についてコメントした。